

養護学校における情報教育

—「自主性と考える力を育てる授業作り」—

和歌山県立たちばな養護学校 教諭 黒原淳行

kurohara@tachibana-sh.wakayama-c.ed.jp

http://www.tachibana-sh.wakayamac.ed.jp

キーワード：自主性、考える力、教科「情報」、手作りテキスト

1. はじめに

本校高等部はコース制という教育課程の類型化をとっており、教科「情報」は学年別（社会コース）で週あたり2時間、主にパソコン室で授業を行っている。本校の情報教育の取り組みとして、平成13年度より高等部教育課程の中に教科「情報」が社会コースの教育課程に位置付けられ、授業は2～3人の教師で1年～3年の「情報」を担当し、3年間を通して系統的に学習できるように内容を工夫している。また他の教科や総合的な学習の時間など生徒はパソコンをはじめとした情報機器に触れる機会も多い。放課後のクラブ活動として自主通学生のパソコンクラブがあり、週1回活動を行っている。

2. 取り組み

「情報」のねらいとして①情報機器を活用するための基礎的な知識・技能を習得する。②情報の果たす役割を理解し適切に選択活用できる力を育てる、ことを目標としている。

情報社会の今日、高等部に入学してくる生徒はパソコン操作のスキル差が大きく、まずは基本的なスキルを身につけることから始める。具体的にはパソコンの電源の入れ方やローマ字入力から入り、ワープロソフト～その他のソフトと進んでいく。しかし単に文書作成や検索のための道具としてパソコンを活用するのではなく、様々な経験を通して将来の社会自立に向けて必要な力をつけるアイテムの一つとしてパソコンをはじめとする情報機器を適切に活用しながら問題の解決ができる力の育成が大切である。そのような観点に立ち、ある程度基本的なパソコン操作ができるようになると情報モラルやマナーについても取り扱うようにしている。特に最近の傾向として本校高等部でも携帯電話を持つ生徒が増えてきている関係上、正しい利用方法はもちろん、迷惑メールやチェーンメール、著作権や肖像権を含めた個人情報の重要性については最新のニュースなども取り入れながら指導している。生徒の反応も非常に大きなものであるが、繰り返し学習することで定着度が高まるものと考えている。

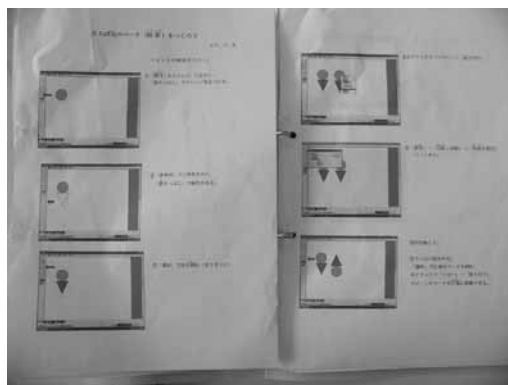


タイピングの練習

3. 指導について

(1) 具体的な学習活動の基本として、生徒にパソコンを媒体とした、常に受け手（相手）を意識させる働きかけを行っている。総合的な学習「テーマワーク」の成果はパワーポイントを使って各自が発表するため、連携をとって1年生の後半に個々がパワーポイントで作成してプレゼンテーションを行うが、作り方だけではなく、自分が何を伝えたいか、また内容について、どのように資料を集め、どのように活用すればより自分の意思が受け手に伝わるのかをみんなで考えるようにしている。それは単に集めたものを並べるのではなく、情報を収集した後、どれを使うか、どうまとめて表現するかを考えながら作成する。そして完成後、メモを取りながら発表し、評価することでお互いの考え方や工夫していたことに気づくことができる。

(2) 教師側からの一方的な指導ではなく、個々の生徒が自主的に授業に取り組むことができるよう配慮している。そのためには生徒が自ら学習を進めることができるように、段階的に手順を示した画像入りの手作りテキストを活用している。手作りのテキストは項目を見やすくし、後で解らないことが出てきても再度テキストを見直すことで問題の解決が比較的簡単にできる。授業で生徒はそれを見ながら自分で学習を進め、わからないことや困ったことがあれば自分から質問して解決するように努力している。言われた通りに学習を進めるだけでは知識や技能はある程度身に付くが、自ら考える力には結びつかない。まず自分でやってみて「どこがわからない」をはっきりさせ、その上で解決のヒントを得て自分でやってみて「わかった」という問題解決の積み重ねが自信につ



手作りのテキスト

ながら‘自主性’や‘考える力’に結びつくと考える。

4. 指導計画

以下は各学年のねらいと指導計画である。

① 1年生

他の中学校から来た生徒は授業でパソコンに触れており、ローマ字入力や簡単な文書作成ができる生徒もいるが、全員が基本的なスキルの獲得を目指すようにしている。そしてインターネット検索や電子メールのやりとり、パワーポイントの基礎を学習する。パソコンをはじめとした情報機器の操作に慣れ親しみながら、新聞やテレビ等からの情報に対する興味や判断力をつけることも必要である。また携帯電話についてアンケートをとり、それらを参考に基本的な取り扱いやルール等を守ることの大切さを指導している。



モニターを見ながらの授業

② 2年生

1年生の復習をした後は、趣味や日常生活に役立つインターネットの便利な使い方等を学び、パワーポイントでのプレゼンテーションや個々のHP作りを行っている。個々の取り組みを通して、自分の考えをまとめていくわけであるが、内容によっては結果的にお互いを知ることにつながり認め合うことにもなっている。また最近の傾向として携帯電話を持つ生徒が増えているため正しい使い方や情報モラル、ネット犯罪等も具体事例で学習している。

③ 3年生

最終学年で卒業に向けての様々な取り組みも多くなっていく中で、電子アルバム作りに取り組んでいる。また卒業後も様々なメディアに触れ、情報機器を活用して情報化社会に参画することが求められる中、つねに情報モラルやその判断力が必要になってくる。特に携帯電話はその利用がさらに増えることが予想され、単にトラブルを避けるだけでなく、大人としての自己責任能力を身につけることが要求される。

5. まとめ

教科「情報」を通してどんな力をつければよいかを考えてみると2つの柱があると思う。まず第1に生徒が課題や困難に直面したとき、学習活動から得た知識やスキルを駆使し、正しい判断のもとで問題解決を図っていかれるかどうかである。そのためには適切な指導の中で繰り返し学習をしながら‘自主性’と‘考える力’の芽を育てていく必要がある。第2に様々な情報機器を使った余暇活動の充実がある。日常生活や余暇活動に、いかに有益に活用できるかである。パソコンや携帯電話は自己責任に基づいて正しく使えば、たくさんの情報が手に入り家族や友人とのコミュニケーションも高まる。そのために必要なソフトウェアをある程度使いこなせるスキルも必要になってくる。意欲的に自ら学ぶ姿勢（自主性）と課題を解決する能力（考える力）が身につくような授業作りを今後も心がけていきたいと思う。